

子どもたちの目がキラキラ輝く園庭づくり

園庭ビオトープをつくるう！

もっと気軽に！もっと楽しく！

豊かな感性や思いやる心は、子ども自身がドキドキ・ワクワクする遊びを通じて育まれます。特に低年齢期の子どもにはそのような目を輝かせて遊びたい環境が必要です。

自然（ビオトープ）には、野の花や木の実、見ているだけでも楽しい虫たち、いろいろな不思議や驚き、発見がそろっています。自然は、四季を通じて、子どもの多岐にわたる興味や関心に応え、創造的な遊びを促します。

草はらのビオトープ



草はらは、まるで子どもたちの宝箱。いろいろな形や色のお花、葉っぱ、たねや実などがそろっています。少しぐらいならむしって大丈夫。おままごとの材料にはことかきません。草をかき分けて、バッタやコオロギ、カマキリをつかまえたり、“宝探し”に誰もが夢中になります。

ポイント

- ・園外散歩のときに、在来種の野草のたねを集めて、まいてみましょう。
- ・冬に、周辺の草はらからバケツ半分程度の土をもらい受け、草はらを設けたい場所にまいてみましょう。

水辺のビオトープ



水のきらめきは、園児の関心をひきつけます。水に触ったり、水面をたたいてみたり、その表情の変化に夢中になります。また、草が茂る部分があれば、トンボやゲンゴロウの仲間など、想像以上にいろいろな生きものが姿を見せてくれます。水辺は、生きものを観察するにはピッタリの場所です。

ポイント

- ・水道水や井戸水のほかに、天のめぐみ「雨水」も有効に使いましょう。
- ・冬に周辺の湿地や田んぼからバケツ半分程度の土を分けてもらい、池に流し込んでみましょう。水生植物が生えてきます。

茂み（樹林）のビオトープ



茂みは、子どもたちの冒険心と想像力をくすぐります。中低木でできたトンネルをくぐり抜けたり、基地をつくったりと、茂みにあるいろいろな空間を利用してたくさんの遊びが生まれます。誰にも邪魔されずに、想像の翼を広げることできます。

ポイント

- ・いろいろな種類の在来種の高木や中低木をバラバラに植えましょう。その方が子どもたちにとって面白い環境ができあがります。
- ・野草も植えると、自然の樹林にもっと近づけられます。

自然の壁のビオトープ



園舎の壁やフェンスにツル植物をはわすと、そこも園児の遊びの空間になります。蜜を吸いに訪れるチョウやそれを待ち構えるカマキリ。自然の営みを目の当たりにします。花や実は、摘んでみたり、においを嗅いでみたり、種類によっては食べてみたりと、季節ごとに五感を刺激する様々な遊びが生まれます。

ポイント

- ・花の匂いが良いもの、実がなるものなど、いろいろな種類の在来種のツル植物を植えましょう。

ビオトープとは

バッタやトンボ、カブトムシ、フクロウなど、自然の生きものがくらす場所のことです。ビオトープには、樹林、池や川、草地などいろいろなタイプがあります。

ドイツなどでは、野生の生きもののために、園庭や学校に設けるほか、まちづくりの中でも、なくなりつつあるビオトープを守ったり再生したりしています。

ビオトープをつくる際のポイント

- ・植える植物を選ぶときには、あなたの地域の自然に本来生えている種類（在来種）を選びましょう。
- ・たねや苗を買ってくるときには、遠くではなく、近隣で生産されたものを選びましょう。
- ・ビオトープをつくった後は、バッタやカマキリ、チョウなどの生きものは持ち込まずに、自然に訪れるのを待ちましょう。

“自然の保育力”の活かし方
～全国学校・園庭ビオトープコンクール 2013 より～

公益財団法人
日本生態系協会